

【記述形式の設問】

[39] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、二次元展開法が実際の業務で使用され、実務実習では、学生との話し合いの中で学生自らが改善して行く手段として使用された。地域では様々な薬剤師の間での問題点の共有化もあげられた。利点として、問題点を共有することでコミュニケーションをとる機会が増え納得のいく結論が出せるようになる点があげられた。

(薬 局)

施設では、複数回の対応をする事によりその能力が進歩する事が判り業務にも取り入れられ、実務実習では、問題点を学生と指導薬剤師がそれぞれの解決手段をすり合わせて明確にすることに役立ち、地域では、事前に複数機関での受け入れ態勢を整えるのに役立った。利点としては、問題点の意識化・共有化、変革目標の設定と明確化が可能な点があげられた。

【選択形式の設問】

⑤-2 KJ法（課題の抽出）について：活用した業務・活動

《まとめ》

上記⑤-2 とほぼ同じ回答結果であった。薬剤師に必要な能力の一つに、このような問題解決能力があり、ニーズにマッチした結果だと思う。

【記述形式の設問】

[40] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

なし。

(薬 局)

日常生活、新入社員研修、社内勉強会、薬剤師会研修会、新人教育があげられた。

【記述形式の設問】

[41] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、関係者間で問題を共有できること、実務実習では、実習に関する問題点

について優先度を決めて解決を図ることによって業務上の混乱を少なくできること、地域では、様々な薬剤師の間で問題点を共有できることがあげられた。利点としては、マイナス因子をコントロールするかプラス因子を推進するか冷静に分析できる点があげられた。

(薬 局)

施設では、優先順位を決めることは難しく順番を間違えると逆に作業の停滞を招くといったマイナス面が指摘された。実務実習では、質問に回答を複数考えさせることにより学生の考えの幅が広がること、地域では近隣の薬局との連携ができることがあげられた。利点としては、問題点の本質を探ることで自身の判断とは違った方法で解決できる場面もあることがあげられた。

【選択形式の設問】

⑥-1 PNP によるフィードバックについて：役立った業務・活動

《まとめ》

病院、薬局ともおよそ 70%近くが実務実習に役立ったと答えている。カリキュラムの 3 要素と比べて役立ったという回答が少ないのは、わかっても、実践することが難しいためと思われる。業務で役立ったのはおよそ 1/3 で、病院、薬局ともに同じ程度であった。

【記述形式の設問】

[42] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

OSCE 評価者を務める際に役立つとの回答があった。

(薬 局)

同様に、OSCE 評価者を務める際に役立つとの回答があった。業務の上では、服薬指導、通常業務全般、子供への対応があげられ、また新入社員研修、社内勉強会や、学生指導、事前学習もあげられた。業務以外では、子供の教育、日々の生活、押しなべて人間関係を円満にするなどがあげられた。

【記述形式の設問】

[43] 役に立った点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、現状業務にもこの思考が欠けているのではないかと気づいた、実務実習では、実習生のモチベーションが上がり人間関係も良好に保てたといった回答があっ

た。利点として、幅広い場面で役立つ、コミュニケーションがスムーズになるといった点があげられた。

(薬 局)

施設では、教育の原点の1つ、新人教育にも役立つ、実務実習では、日誌で自己に対する反省点があまりにも強い学生に対して意欲を持たすのに役立つといった回答があった。生活の中の色々な場面で使用でき、地域では、プライマリ・ケアの現場で生活習慣病の生活指導の際に行動変容を促せたといった点があげられた。利点としては、理解を助けたり、深い気づきを与えることに役立つ点があげられた。

【選択形式の設問】

⑥-2 PNP によるフィードバックについて：活用した業務・活動

《まとめ》

上記⑥-1の結果と同様である。

【記述形式の設問】

[44] その他を選ばれた場合その内容をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

患者教育、OSCE の評価に活用できる点があげられた。

(薬 局)

OSCE 評価や学生指導、事前学習、患者応対、服薬指導から、新入社員研修、社内勉強会、部下育成があげられ、業務以外では、子育て、日常生活があげられた。

【記述形式の設問】

[45] 活用された点が具体的にあればお書きください。

《まとめ》

(病 院)

施設では、部下への指導へ活用でき、実務実習では、学生の間違いについて効果的に正すことができるとの回答があった。利点としては、良い資質を探して伸ばしてやることは指導する側にも努力が必要なことが理解できた、実践は難しいが心掛けるようになった、相手の気持ちを考慮すると良い方法であるといった点があげられた。

(薬 局)

施設では、実際の業務においても大切さが分かり実践した、実務実習では、実習生の到達目標チェックのフィードバックにおいて日々活用できた、地域では、自己の持つ薬剤師会の委員会運営（広報）に役立てたといった回答があった。利点としては、まず対象者の耳をこちらに向けるためPから入るとこちらの真意を汲んでもらいやす

いことが良くわかり毎日助かっているという回答があった。

#### 【全体のまとめ】

- ・ 調査項目の“役に立った”と“活用した”でほとんど差が認められない。
- ・ 実務実習では、約半数の方が活用したと回答している。また、施設でもある程度活用されている。
- ・ 一方、地域、全国レベルでは利用率は低い。
- ・ 項目の中ではゲームやKJ法の利用率はさらに低い傾向にあった。
- ・ 自由記述欄でも、KJ法、問題点への対応、PNPのいずれにおいても有益だったとのコメントが多数寄せられていた。
- ・ 地域、全国での利用率の低さは、そもそも直接指導にあたっている薬剤師は店舗に拘束されている割合が高く、その他の活動に関わる余裕がないのであろう。このことは、薬剤師の職場環境そのもの、すなわち「多忙すぎる」こと、さらには、多忙であるがゆえに「学生を放置」といった悪い例ともつながるのであろう。

### (3) ワークショップ全体について

1) ワークショップに参加されて薬学教育者、指導薬剤師としての意識は高まりましたか。

#### 【選択形式の設問】

ワークショップに参加されて薬学教育者、指導薬剤師としての意識は高まりましたか。

《まとめ》

病院、薬局とも、大いに高まった (36%)、まあまあ高まった (45%)、少し高まった (15%) と、それぞれの割合も、合計した割合 (95~6%) も同程度であった。本ワークショップの成果として評価できるものとする。

2) ワークショップに参加して有意義だったと思われた点は何ですか。

#### 【選択形式の設問】

ワークショップに参加されて有意義だったと思われた点は何ですか (複数回答可)。

《まとめ》

病院、薬局ともに 50% を越えて、最も高かったのは、「大学における 6 年制教育の現状が理解できた」という項目であった。これは、6 年制薬学教育において、実務実習に関しては、病院、薬局が大学と協力して実習を実施してゆく上で、最も重要な共通理解が得られたという点で評価ができるが、過半を越えたとはいえ、十分とは言えない数字であると思う。また、実際に実務実習を指導する上で必要となる「実務実習の実施内容が理解できた」が 45% 程度、「モデル・コア・カリキュラムの構成内容を理解できた」が病院 55%、薬局で 47% と同じく 50% 前後であったことから、本ワークショップを受講し、実際に実務実習を指導した薬剤師を対象とするフォローの必要性が示される結果と考える。

#### 【記述形式の設問】

[46] その他

《まとめ》

(病院)

その他の有意義な点として、実務実習開始前の心構えが持てたこと、実務実習に対する幅広い考え・教育に取り組む姿勢が身についたこと、教育学の基本事項・教育手法・学習プロセス、大学での 6 年制教育の内容、大学・病院・薬局の実務実習に対する考え方・教育観・職業倫理の違い、薬業連携の重要性が理解できたこと、体験を通して SGD の意義が理解できたことなどがあげられた。また、他の病院薬剤師や薬局薬

剤師、大学教員との情報交換・意見交換ができたことを有意義とする回答も複数あった。一方、大学教員の医療現場に対する認識不足や薬剤師に対する評価の低さを感じた、指導薬剤師の必要性を感じないとの意見もあった。

#### (薬 局)

上記の(病院)と同じく、他の薬局薬剤師や病院薬剤師、大学教員との情報交換・意見交換ができた点をあげる意見が複数あった。また、薬学教育に対する理解が深まった、現状における薬学教育や薬剤師の在り方についての問題点を考える契機となった、自分も成長できた、学生を受け入れるモチベーションが高まったことをあげる意見や、体験を通してKJ法やSGDの意義、参加型研修の意義が理解できたという回答もあった。

- 3) ワークショップに参加して、改善すべき点、期待はずれだったこと、こんなことをやって欲しかった、こんな情報が欲しかったなど、自由にご意見をお書き下さい。

#### 【記述形式の設問】

[47] 改善すべき点

《まとめ》

#### (病 院)

他の設問に比べて非常に回答数が多かった。運営面での改善を求める意見として、2日間は長い、病院薬剤師の割合が少ない、SGDの人数が多すぎる、モチベーションが低い参加者に対する対策が必要、参加人数に制限がある、開催回数が少ない、セッションの説明・プロダクトの作成にパソコンを使うべき、参加費が高い、情報交換会は自由参加にして欲しいなどの意見があった。内容的には、非現実的・実際の実習に役立たない、カリキュラムプランニングのテーマが古い、スケジュールが過多・時間がタイト、資料が不十分、配布資料は説明前に欲しい、内容的に1回の研修では理解できない、事前情報が欲しい・予習がしたい、講義が長すぎる、各セッションにもう少し時間を掛けるべき、作法を重要視し過ぎ、中途半端なプロダクトで終わってしまい消化不良、教育用語が難しい、タスクフォースの介入が統一できていない、タスクフォースのスキル向上が必要、病院薬剤師と薬局薬剤師の業務の違いを考慮した内容にすべき、横並びではなく薬剤師個々の経験や能力の差を考慮した内容が必要、SGDが多すぎる、プロダクトが反映される場がないなどがあげられた。

#### (薬 局)

上記の(病院)と同じく、他の設問に比べて非常に回答数が多かった。同様の意見も多いが、運営面では、2日間は長い、年齢に偏りがある、SGDの人数が多すぎる、場所が不便、参加人数に制限がある、開催回数が少ない、運営経費は大学が負担すべき、情報交換会は不要などがあげられた。また内容的には、非現実的・実際の実習に

役に立たない、スケジュールが過多・時間がタイト・集中力が続かない、達成目標が曖昧、配布資料は説明前に欲しい、内容的に1回の研修では理解できない、事前情報が欲しい・予習がしたい、説明が抽象的である、各セッションにもう少し時間を掛けるべき、作法を重要視し過ぎ、中途半端なプロダクトで終わってしまい消化不良、教育用語が難しい、タスクフォースの介入が強引・統一できていない、タスクフォースのスキル向上が必要、病院薬剤師と薬局薬剤師の業務の違いを考慮した内容にすべき、横並びではなく薬剤師個々の経験や能力の差を考慮した内容が必要、方略の意味が良くわからない、SGDが多すぎる、2日目の2つの講演を最初に聞きたい、大学での教育内容に関する情報が少ない、コンセンサス・ゲームの正解を知っている参加者がいるなどがあげられた。

#### 【記述形式の設問】

[48] 期待はずれだったこと

《まとめ》

##### (病 院)

ほとんどの回答が[47]と重複するが、実際の実習において役に立たない内容が多い・実践的でないという意見が非常に多かった。時間が長い、スケジュールがタイト、資料が十分でない、参加者のレベルが揃っていない・意欲のない参加者がいる、モデル・コア・カリキュラムの内容を扱っていない、実習に対する不安が払しょくされなかった、タスクフォースの対応・レベルのばらつきが大きい、タスクフォースの誘導が強引で参加者の意見が反映できない、SGD や KJ 法は実際の実習では使い難い、教育用語が難しい、プロダクト作成に追われ十分に意見交換・情報交換ができなかった、ワークショップ後の人的交流の場がない、病院薬剤師にとってセルフメディケーションのユニットは取り組み難いなどの意見があった。

##### (薬 局)

ここでもほとんどの回答が[47]と重複する。最も多いのは、やはり実際の実習において役に立たない内容が多い・実践的でないという回答であった。また、大学教員と現場との距離感を実感した・大学教員が現場を知らない、時間が長い、スケジュールがタイト、教育用語が難しい、参加者のレベルが揃っていない・意欲のない参加者がいる、モデル・コア・カリキュラムの内容を扱っていない、タスクフォースのためのワークショップになっている、タスクフォースの対応・レベルのばらつきが大きい、プロダクト作成に追われ十分に意見交換・情報交換ができなかった、OHP は時代遅れ、実習に対する不安が払しょくされなかった、資料が十分ではないなどの意見があった。

【記述形式の設問】

[49] こんなことをやって欲しかった

《まとめ》

(病 院)

実際のモデル・コア・カリキュラムに示されているユニットを対象としたカリキュラム・プランニングやスケジュール、LSの作成など、実習指導に役立つ実践的な内容を希望する回答が非常に多かった。これを反映して、具体的な指導に関わる内容について、施設間の情報交換・実際の実習指導や評価方法の例示、やる気がない学生への対処法・学生のモチベーション向上の手法の紹介、実務実習の模擬演習や学生指導に関するロールプレイの実施、様々な職種との意見交換の場の提供、指導者としてのスキルアップを図る手法・実施が難しいLSの対処法の紹介などがあげられた。また、大学教員との意見交換の場を求める意見や、現状の問題点の改善方法に時間を掛けるべきとの提案もあった。ワークショップに取り入れることは難しいが、大学の事前学習や講義の見学を希望する意見もあった。

(薬 局)

上記の(病院)と同じく、実習指導に役立つ実践的な内容を希望する回答が非常に多かった。“具体的な指導方法”を求める意見として、同様に学生指導に関するロールプレイや実習の実施方法に関する具体例の紹介・SGDの実施、実習に関する大学との意見交換の場の提供、実施が難しいLSの対処法に関する討論などが求められ、また実習テキストに関する説明についても希望があった。さらに、教育論やコーチングに関する講演や、薬剤師がより興味を持てるテーマとしての在宅や薬薬連携についての実例紹介、大学の事前学習の紹介、評価方法の実例紹介などをあげる回答もあった。

【記述形式の設問】

[50] その他

《まとめ》

(病 院)

ワークショップへの参加が有意義であったという意見が多かったが、要望については、これまでの回答と同じように実習指導に役立つ実践的な内容を求める回答が複数あった。また、ワークショップ受講者に対するフォローアップ的な研修の必要性に関する意見が多く、他にも、開催回数を増やす、大学と現場の交流を促進する、共用試験現場の見学を希望する、大学での教育内容に関する情報が欲しい、もっと意見交換・情報交換の時間が欲しい、学生を交えたワークショップを開催して欲しい、タスクフォースはできるだけ多くの人にやって欲しい、事前情報が欲しいなどの希望があった。



(薬 局)

上記の(病院)と同じく、ワークショップへの参加が有意義であったという意見が多かった一方で、同様に実習指導に役立つ実践的な内容を求める回答も相当数あった。また複数回参加の希望など、ワークショップ受講者に対するフォローアップ研修の希望もあった。開催回数を増やす、大学との交流の促進、事前学習などの大学での教育内容に関する情報の提供、事前情報の必要性なども、(病院)の回答と同様であった。さらに、ワークショップ自体の必要性に対する疑問や内容の改善を求める意見も寄せられた。

4) 今後ワークショップ受講者を対象とした地区単位、地域単位のアドバンスト・ワークショップが開催される場合

【選択形式の設問】

- |   |
|---|
| <p>① 参加されますか。</p> <p>② どのような参加者が望ましいとお考えですか(複数回答可)。</p> <p>③ どのような職域の方が参加されるのが望ましいとお考えですか(複数回答可)。</p> |
|---|

《まとめ》

上で述べたことは、この項目で、病院90%、薬局90%の回答者(本アンケート回答者のおよそ90%が実務実習受け入れ経験がある)がアドバンスト・ワークショップに参加する(15%程度)、あるいは、条件・内容によっては参加する(75%程度)と答えていることから重要なこととである。さらに、「参加者として、病院、薬局、大学の3者からの参加者がいること」を条件としている回答が90%近いことも、本ワークショップが、実務実習の運営にこれら3者の協力の必要性と、実際の協力基盤を提供してきたことを示すものであるとともに、フォローが必要な実務実習指導者のために、今後のアドバンスト・ワークショップを企画するときに第一に考慮すべきことを示している。

【記述形式の設問】

- |   |
|---|
| <p>[51] どのような内容を希望されますか。ご自由にお答え下さい。</p> |
|---|

《まとめ》

(病 院)

これまでの設問でワークショップ受講者に対するフォローアップ研修の希望が多かったことを反映して、数多くの回答があがった。やはり、実際に実習指導に役立つ内容に関する要望が強く、スケジュールや指導方法、問題点の共有化、評価方法の実際、トラブル対策などについて、方法論よりも実例や事例を取り上げた実践的な内容があ

げられた。特に、指導に関するノウハウ、評価方法と問題点に対する対策についての希望が多かった。また、大学との連携、施設間連携や薬業連携による情報交換も求められ、大学を中心とした地域単位での交流の場を設けることも必要となろう。

(薬 局)

(病院)と同じく、数多くの回答があった。同様に、実際に実習指導に役立つ内容に関する要望が強く、内容的には(病院)と大きな差はなかった。指導方法、評価方法と問題点に対する対策についての希望が多いこと、大学や施設間連携、薬業連携を求める意見が多いことも共通していた。また、実例集・事例集やインターネットの動画の利用など、教材や資料についてより使いやすいもの・実践的なものが求められる傾向にある。一方、数は少ないが、教育論や薬剤師の将来像に関する講演を希望する意見もあった。

【記述形式の設問】

[52] 全体講演を行なう場合、どのような講演を希望されますか(具体的に講演者をあげていただいても結構です)。

《まとめ》

(病 院)

実務実習内容や指導方法、評価方法、トラブル対応などに関する具体例の紹介や体験談といった実際の実習指導に活かせる内容の講演を求める回答が多かった。一方で、日野原先生やコンサルタント経験のある先生方の講演を希望する回答も複数あり、また薬剤師の将来像や薬剤師に対する医療現場・社会の期待、海外での取り組み、生涯学習制度などもテーマとしてあげられており、6年制における薬剤師教育や今後の薬剤師職能の在り方に関する啓発を希望する意見と言える。

(薬 局)

あげられた要望は上記の(病院)とほとんど同じで、実際の実習指導に活かせる実践的な内容の講演を求める回答が多かった。日野原先生やコンサルタント経験のある先生方、医療人教育で著名な先生方の講演を希望する回答も多くあり、さらに薬剤師教育や薬剤師職能の在り方を啓発する講演を希望する意見も同様にあげられた。

5) その他、ワークショップについてご自由にご意見をお書きください。

【記述形式の設問】

[53] その他、ワークショップについてご自由にご意見をお書きください。

《まとめ》

(病 院)

ワークショップについて、多くの意見・要望があげられた。全体的にはワークショ

ップの意義について肯定的な意見も相当数あるが、プログラムの改善やアドバンス  
ト・ワークショップの実施を求める意見や、運営や内容に関する疑問や不満、改善を  
求める意見も多くあげられた。

(薬 局)

上記の(病院)と同様の意見・要望があげられた。

これまでの回答と同様に詳細に検証することにより、今後のワークショップの発展  
的な継続に向けて活かして行きたい。

### 【全体のまとめ】

- ・ 有意義であった理由は様々であり、どの選択肢も 30-40%が有意義と答えており、多面的  
なニーズに答えたものと言える。
- ・ 一方、アドバンストWSには、20%程度の参加希望であり、著しく低い。
- ・ また、病院・薬局・大学の三者からなるWSを期待しており、連携強化に意欲的である  
ものと推察される。
- ・ アドバンスト・WSへの期待の低さの要因は、向上心、多忙、具体的プログラムが不明  
であること、など多くの要因によるものであろう。「ニーズ」をつかんだうえで提案す  
れば、参加希望は増えるものと考えられる。

その他

ワークショップでは下記の SBOs を到達目標としている。

- 1) 教育の原理・あり方を説明できる。
- 2) カリキュラム立案の手順を説明できる。
- 3) 学習単位の具体例について目標を作成できる。
- 4) 教育の方法、媒体の特徴を述べることができる。
- 5) 効果的な学習方略を立案できる。
- 6) 教育評価の原則、評価方法の特性を説明できる
- 7) 適切な評価方法を作成できる。
- 8) 立案したカリキュラムを評価できる。
- 9) 教育改善に対する抵抗の克服手段を説明できる。
- 10) 教育とその改善に積極的な態度を示す。

今回のアンケート結果から、全体的には動機付けができ、良い方向に変化したと思われ  
る。SBOs ごとにどの程度の変化が起きたかについては、アンケートで具体的な問いかけを  
していないので、不明である。自己流で誤った方向に進んでいないか、常に検証する仕組  
みが必要である。また、経営者や認定指導薬剤師以外の薬剤師にも同様の変化を期待した  
いが、今後の課題であろう。

# 資料 4

ワークショップ委員会委員及びタスクフォース経験が豊富な

大学教員・指導薬剤師を対象としたアンケート調査

# 資料 4-1

インタビューフォーム

## 1. 薬学教育協議会からの依頼文

各位

薬学教育協議会  
薬学教育者ワークショップ委員会

拝啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）におきましては、タスクフォースとしてご尽力いただき、誠にありがとうございます。おかげさまで、認定申請いただいた薬剤師数も当初の想定を上回り、平成22年度から開始された実務実習は、対象となる全学生が滞りなく履修し、大きなトラブルもなくほぼ順調に進んでおります。

薬学教育協議会では、6年制薬剤師養成教育において重要な位置づけにある実務実習をさらに教育効果の高いものにするために、厚生労働省科学研究費補助金事業として、現行ワークショップの実施プログラムについて、実務実習指導における有用性と実効性の検証を行っております。平成23年度にはその事業の一環として、平成22年度及び平成23年度第I期に実務実習を担当された指導薬剤師の先生方にワークショップに関するアンケート調査を実施致しました。

今年度はさらに、これまでタスクフォースとしてワークショップの運営に関わってこられた先生方からもご意見を頂戴し、上記の調査結果と合わせて今後のワークショップの運営に活かして参りたいと思っておりますので、タスクフォースとしてのお立場で、添付のアンケートにお答えいただきますよう何卒よろしくお願い致します。

なお、今回は各地区の薬学教育者ワークショップ委員会委員の先生方からのご推薦をもとに、限られた人数の方にアンケートをお送りしております。いただいたご意見は、上記のアンケート結果と共に、委員会における今後のワークショップの改善のための検討資料とさせていただきますが、一部は上記科研費の報告書に掲載させていただく場合もあります。掲載にあたっては、個人名やご所属の施設名は伏せさせていただきますが、お答えいただいた内容で掲載をご許可いただけない項目がありましたら、恐れ入りますが、その旨お書き添えください。

年度末の大変お忙しい中、お手数をおかけして誠に申し訳ありませんが、平成24年2月25日（金）までにご回答いただきますようお願い致します。

以上、何卒よろしくお願い致します。

敬具

・回答方法

添付のアンケート用紙に回答ご記入いただき、メールの添付書類として、  
大阪大学大学院薬学研究科・平田收正宛 ([hirata@phs.osaka-u.ac.jp](mailto:hirata@phs.osaka-u.ac.jp)) にご返信く  
ださい。送状は不要です。ご不明な点も上記アドレス宛にお問い合わせください。

**2. 現行のワークショップについてご意見をお聞かせください。**

**2-1. 現在ワークショップで行っているプログラム**

- (1) オリエンテーション
- (2) コンセンサスゲーム
- (3) KJ法
- (4) 学習目標
- (5) 学習方略
- (6) 教育評価
- (7) 問題点への対応
- (8) 医療人教育改革に関する講演
- (9) 薬学教育改革の現状に関する講演
- (10) その他

**2-2. 現在のワークショップの運営について、今後改善すべきとお考えの点について  
お書きください。**

- (1) 実施回数
- (2) 日程
- (3) 会場
- (4) 受講者の選び方
- (5) 参加費
- (6) 運営組織
- (7) タスクフォース
- (8) 練習会
- (9) その他

**2-3. ご自分が指導薬剤師としてご担当された実務実習、あるいは大学での教育活動に  
おいて、ワークショップで行ったカリキュラムプランニングや教育技法を活用された  
例がありましたら、お聞かせ下さい。**

**3. ワークショップで得た薬学教育に関する知識や情報、基礎的な教育技法を実務実習の指導に活かすためには、さらにアドバンスワークショップが必要と考え、現在、全国的な実施に向けて検討を行っております。このようなアドバンスワークショップについてご意見をお聞かせ下さい(下記の項目の中から該当するものを選んでお答えください)。**

- (1) 開催の必要性
- (2) 開催規模 (全国、地区単位、府県単位、ブロック単位等)
- (3) 開催日程 (半日、1日、2日等)
- (4) 運営 (企画組織、主催組織、事務局等)
- (5) 参加者 (ワークショップの受講者、実務実習指導薬剤師、実務実習指導経験者、薬剤師全般、大学教員等)
- (6) 参加費 (無料・有料)
- (7) 通常のワークショップとの関連性
- (8) 内容 (必要なもの、効果的なもの等ご自由にお書き下さい)
- (9) その他

**4. その他、ワークショップに関するご意見をご自由にお書きください。**



# 資料 4-2

アンケート調査結果(まとめ)

ワークショップ委員会委員及びタスクフォース経験が豊富な  
大学教員・指導薬剤師を対象としたアンケート調査（インタビュー）  
のまとめ

**2. 現行のワークショップについてご意見をお聞かせください。**

**2-1. 現在ワークショップで行っているプログラム**

**(1) オリエンテーション**

- ・ 変更する必要はない。（複数）
- ・ WS のスケジュール説明だけでなく、薬学教育者としての心構えを指導するような内容も含め、WS 参加の意義を理解させる必要がある。
- ・ WS での学習目標を明示する必要がある。
- ・ 受講者は、WS で実務実習の指導方法が修得できると期待しているので、オリエンテーションの主たる目的はカリキュラムプランニングであることを明確に説明する必要がある。
- ・ 受講者は何もわからない状態で参加しているが、オリエンテーションの説明だけで WS の目的と流れを理解することは難しい。もう少し丁寧な説明が必要である。
- ・ より簡潔にすべきである。

**(2) コンセンサスゲーム**

- ・ 答え（NASA の見解）を知っている参加者がいるので、新しいゲームに変更すべきである。（多数）
- ・ 題材自体がマンネリ化してきており、新しい内容に改変すべきである。
- ・ 答えを知っている参加者がいても、アイスブレイキングの目的は達成できるので、変更の必要はない。（複数）
- ・ アイスブレイキングを目的とするのであれば、コンセンサスゲームではなく、「お絵かき」、「他己（タコ）紹介」も有効と考えられるので、導入すべきである。（複数）
- ・ SGD 終了後、P 会場での計算などの作業に時間がかかりすぎる。
- ・ SGD には、かなりの薬剤師が慣れてきているので、あえてコンセンサスゲームを行う必要性はない。

**(3) KJ 法**

- ・ 変更する必要はない。（複数）
- ・ “語るところを聞く”、“志を同じくするカードが集まる”といった本来の KJ 法に必要な

な作業が十分に行われていない。また、「島を作る」作業が単なる仕分け作業になっている。説明では、「KJ法を一部参考にして」程度の表現に留めるべきではないか。

- ・ 多くの情報を抽出するためには良い方法であるが、木を見て森を見ずの状態になることが多く、ネガティブな結論に至ってしまう傾向がある。
- ・ 非常にすぐれた方法論であるので、別の方法に変える等の大幅な変更は難しい。
- ・ テーマは、「薬学教育の問題点」ではなく、「長期実務実習の問題点」、「薬学 6 年制」、「薬剤師の給料表」、「薬剤師の地位」など、現場のニーズを反映したものに変更すべきである。(複数)
- ・ テーマが「薬学教育の問題点」の場合、タスクとの意見交換の場になって行く場合が多く、十分に SGD が行われない。
- ・ 時間が足りないので十分に SGD ができていない。
- ・ 島が大きすぎる場合が多い。島を作る際の SGD が十分できず、大きくまとめてしまう傾向がある。
- ・ WS の最初に「問題点をあげる」ことの必然性を十分に説明していないので、受講者はただ「やらされている」感覚になっている。
- ・ 実習から離れたテーマの方がやりやすい。

#### (4) 学習目標

- ・ 必須である。変更の必要はない。(複数)
- ・ SBOs の概念は実務実習に浸透してきてはいるが WS でしっかりと学ぶ意義は大きい。
- ・ ブルームのタキソノミーを分かりやすく学ぶという点では現在のセッションのままでよい。ただ、今後モデル・コア・カリキュラムの見直しに伴い学習目標の表現形式が変わればこの流れも変わる。受講者が「結局は言葉遊び」と捉えないように、「お作法」が重要である背景をきちんと理解できる説明が必要である。
- ・ 「医療倫理」、「セルフメディケーション」、「チーム医療」以外のユニットも増やした方がよい。(複数)
- ・ 「セルフメディケーション」「チーム医療」は残し、「医療倫理と薬剤師」は他のユニットに変更すべきである。
- ・ 「医療倫理と薬剤師」については取り組みにくいので、「社会人としてのマナー」などとすればよい議論ができる。
- ・ 参加者全員が議論しやすいユニットを準備する必要がある。
- ・ 現場の実務実習に直結したユニットが望ましいが、病院と薬局で取り組みやすいユニットが異なるので、取り組みにくいユニットに当たると議論に参加できなくなる。
- ・ 複数のグループで同じユニットを扱った方が議論が深まる。
- ・ カリキュラムプランニングと教育技法の修得が WS の主たる目的であるなら、ユニットを実務実習や薬剤師業務に限定する必要はない。むしろ低学年の導入教育や基礎科目を

取り上げた方が、病院、薬局という立場や職務上の経験の違いにとらわれることなく、参加者全員が学生の視点に立って議論できる。

- ・ しっかり議論して GIO を立てていない。GIO は SBOs の和集合であるように説明するのはおかしい。
- ・ 実務実習において、GIO、SBOs の概念は実務実習に浸透してきてはいるが、これらを WS でしっかりと学ぶ意義は大きい。
- ・ 学習目標を立てることの意義や立て方を短時間で理解するのは難しいが、WS ではこれを設定することの重要性を理解できれば良い。
- ・ お作法にこだわりすぎると重要な議論ができなくなる。
- ・ 学習目標に関しては、受講者が SBOs を作成する作業は不要である。何故なら現在のモデル・コア・カリキュラムでは、指導薬剤師がアドバンス的に学習目標を組めるゆとりがなく、また WS の経験だけではそれを組めるレベルにも達しないので、SBOs の作成作業は非現実的なものとなっている。よって、より説明に時間を取って、学習目標の設定の意義や具体的な GIO とその SBOs(2~3 個)について十分な説明を行う必要がある。

#### (5) 学習方略

- ・ 必須である。変更の必要はない。(複数)
- ・ 実務実習においては、カリキュラムの 3 要素の中で学習方略が最も重要である。したがって、もう少し時間をかけて意義や作成方法を説明する必要がある。
- ・ 資料は、医学教育学会で作成された WS ガイド等を参考に新しい方法を含めたものに変更すべきである。例えば、クリニカルクラークシップ、OJT、ポートフォリオなどが含まれており、現実に即している。
- ・ 2 年間の実務実習で起こった多くの事例を挙げ、教育学的なものだけでなく、現実的な問題解決のための学習方略について考える必要がある。
- ・ 参加型学習における学習方略の重要性について、もう少し時間をかけて説明すべきである。
- ・ 予算については、特に設定する必要はない。
- ・ SBOs ごとに作成した学習方略の表を学習の順番を考慮して LS の表に変えていく作業がわかりにくいので、説明をもう少し工夫する必要がある。
- ・ 実務実習においては、カリキュラムの 3 要素の中で学習方略が最も重要である。よって、学習方略のプレゼンは必要で、もっと意義を説明する必要がある。
- ・ 説明の中で、「味気ない学習方略例」、「ワクワクさせる学習方略例」など実例を紹介することは、有意義で実践的である。

#### (6) 教育評価

- ・ 必須である。変更の必要はない。(複数)